



10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方（著）大空小学校初代校長 木村泰子 より引用

10年後の社会を生き抜くために必要な4つの力とは③

「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」

「自分を表現する力」「チャレンジする力」

「文句」と「意見」の違い、知っていますか？

～ 誹謗中傷を「自分の考え」と勘違いしている大人たち ～

「自分の考えを持つ力」とは、たとえば「先生はこう言うけど、俺はこう思うねんけどな」とか、「お母さんはこう言うけど、私はこう思う」とか、大人の前で子どもが自分の考えを持つことです。

先生の言うことをよく聞いて、いい評価をされてほめてもらう。それで昭和の時代はよかったかもしれませんが、でも、社会に出て評価してくれる人がいなかったり、評価されなかったりしたら、その人はどうなるのでしょうか？ 社会に出れば、いろいろな人がいます。今まで100点を取ってほめられていた子が、社会に出て上司に「何やってるんだ！」と怒られたとたんに心がボキンと折れて会社に行けなくなったり、逆に「なんで私が怒られなくちゃいけないんだ」とキレてしまったり。現実にはよくある話です。

今は SNS などを使って誰もが自由に自分の考えを持って発信することができる世の中です。このこと自体はいいことだと思いますが、その反面、自分の正義を主張する人もよく見かけますね。勘違いしてはいけないのは、それがイコール「自分の考えを持つ」ではないこと。言いたいことを言ったり、正義を主張したり、誰かを誹謗中傷したりするのは、「自分の考え」ではなく、ただの文句です。自分の考えを持っている“フリ”をしているだけ。

確かに文句も「自分の考え」の中の一部ですが、それを表現して、表現の仕方によって人が傷ついたら、それはもう「自分の考え」ではありません。正義の主張を自分の考えとしてしまう今の社会。でも、それで誰かが傷ついたり、死んでしまったりしたら、それでも「自分の考えを述べただけ」だと言い切れるでしょうか。

「言うことを聞きなさい」から「あなたは どう思う？」へ

子どもは問われることで、意識するようになります。たとえば、親がニュースを見ている時、「これおかしいんじゃないか？」などと、つい感想を言うてしまうことがありますよね。そういうのを子どもはよく聞いています。そんな親のぼやきが、知らず知らずのうちに価値観を植えつけてしまったり、正解を押しつけることになったりしないかと、心配になりますよね。

でも、こういうときこそ、魔法のひと言です。もし、そこに子どもと一緒にいたら、「あなたは どう思う？」と聞いてみたらいい。子どもはすぐに答えられないかもしれませんが。だから、それまでの親子関係の巻き戻しから始めるリハビリ機関が必要なんです。なぜなら、それまでの親子関係で「親の言うことを聞きなさい」とか、上から目線で小言ばかり言っていた親が急に「あなたは どう思う？」と対等に意見を求めてきたりしたら、「今さらなんや？」と思うのも当然です。

これまでの親子の関係性の中で子どもの考えや意見を聞こうという考えがなかったお母ちゃん、お父ちゃんがとってつけたように急にやり始めてもダメ。「あなた、どう思う？」を何度も日常の言葉として当たり前のように繰り返して、子どもが「お母ちゃん、お父ちゃんに本音を言っても大丈夫だ」安心したとき初めて、本音を言ってくれるようになるでしょう。